

国際日本文化研究センター一般公開
所蔵資料展示

海の彼方から見た日本

一日だけの貴重書展示



「大仏の寺（方広寺）」モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行』より

平成24年11月1日(木)
国際日本文化研究センター資料課

日本についてヨーロッパ人の初期の認識は、「黄金の島ジパング」という記述を含むマルコ・ポーロの「東方見聞録」でした。しかし、マルコ・ポーロは実際に日本を訪れたわけではありません。実際の見聞にもとづく記録をヨーロッパに伝えたのは、ザヴィエルを始めとするイエズス会の宣教師たちでした。大量の報告書が日本からローマへ送られ、出版されたものも多くあります。

やがて、日本のキリスト教は壊滅状態となり、日本の情報をヨーロッパにもたらす窓口になったのはオランダの東インド会社でした。多数のオランダ人、オランダに雇われたヨーロッパ人が日本に滞在しました。商館長や医師などの中には、日本滞在の体験や日本研究の成果を著作として残した人々がいます。また、日本からの報告書をもとに著作を残した人もいます。

本展示では、そのうちの代表的な人物、カロン、モンタヌス、ケンペル、ツンベルク、ティチング、シーボルトの業績を中心に、本センターの所蔵する貴重書をご紹介します。

■マルコ・ポーロ、イエズス会

1. マルコ・ポーロ 『東方見聞録』 英語版 1818 年
The travels of Marco Polo, a Venetian, in the thirteenth century.
2. ルイス・フロイス 『1595 年日本年報』 1598 年
Nova relatio historica de statu rei christianæ in Iaponia, et de Quabacundoni, hoc est, monarchæ Iaponici trucidatione, binis epistolis.
3. トルセリーニ 『ザビエル書簡』 1600 年
Francisci Xaverii Epistolarum libri quatuor.
4. ヴァリヤーノ 『日本年報』 1582 年
Nouveaux avis de l'estat du christianisme es pays et royaumes des Indes orientales & Jappon, enuoyés au R.P. general de la compagnie du nom de Jesus.

■カロン (Caron, François, ca. 1600–1674)

カロンは1619年から1640年まで長く日本に滞在、平戸のオランダ商館に勤務、商館長となった。ケンペルの『日本誌』が登場するまで、カロンの『日本大王国誌』はヨーロッパにおける日本についての基本書となった。

5. カロン 『日本大王国誌』 オランダ語版 1648 年
Beschrijvinghe van het machtigh coninckrijcke Japan.
6. カロン 『日本大王国誌』 ドイツ語版 1668 年
Fr. Carons, und Jod. Schouten Wahrhaftige Beschreibungen zweyer mächtigen Königreiche, Jappon und Siam.

■モンタヌス (Montanus, Arnoldus, 1625?–1683)

モンタヌスは、オランダ生まれの牧師、ベストセラー作家。『日本誌』は、17世紀後半に登場した最初の本格的な日本文献であった。来日した経験のないモンタヌスが、日本へ遣わされたオランダ使節団や商館長の日誌、報告書をもとに日本について著述したもので、当時のヨーロッパにおける日本情報を網羅的に集約した「日本誌」で、100枚近くの豊富な図版を含む。

7. モンタヌス 『東インド会社遣日使節紀行(日本誌)』 オランダ語版 1669 年
Gedenkwaerdige gesantschappen der Oost-Indische Maetschappy in 't vereenigde Nederland, aen de Kaisaren van Japan.
8. モンタヌス 『東インド会社遣日使節紀行(日本誌)』 英語版 1670 年
Atlas Japannensis.

9. モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行(日本誌)』英語版 1670年
Atlas Japannensis.
10. モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行(日本誌)』ドイツ語版 1670年
Denckwürdige Gesandtschafften der Ost-Indischen Gesellschaft in den Vereinigten Niederländern, an unterschiedliche Keyser von Japan.
11. モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行(日本誌)』フランス語版 1680年
Ambassades mémorables de la Compagnie des Indes orientales des Provinces Unies, vers les empereurs du Japon.

■ケンペル (Engelbert Kämpfer, 1651-1716)

1690年に来日、約2年間出島商館医として勤務しながら、日本の地理、社会、文化、宗教、植物、医学などに関する資料の収集を行った。日本滞在中に二度、江戸参府を行っている。『日本誌』は、日本の歴史、地理、動・植物、政治、宗教、長崎と貿易、参府旅行の記録等から成り、ヨーロッパではじめて体系的に日本を紹介した著作。また、「鎖国」という言葉は、ケンペルの論文に由来する。

12. ケンペル『廻国奇観』1712年
Amœnitatum exoticarum politico-physico-mediciarum fasciculi V.
13. ケンペル『日本誌』英語版 1728年
The history of Japan.
14. 『異人恐怖伝』 檢夫爾著；志筑忠雄訳；黒澤翁満校編 嘉永3(1850)年

■ツンベルク (Thunberg, Carl Peter, 1743-1828)

スウェーデンの医師、植物学者。オランダ東インド会社医師として1775年来日。14ヶ月間日本に滞在、多くの植物を採集するとともに、商館長の江戸参府にも随行した。初めてリンネの分類に基づき日本の植物を分類した『日本植物図誌』を著し、日本の植物学の基礎を築いた。

15. ツンベルク『日本の鑄貨』1779年
Inträdes-tal, om de mynt-sorter, som i äldre och sednare tider blifvit slagne och varit gångbare uti kejsaredömet Japan.
16. ツンベルク『日本植物図誌』1784年
Caroli Petri Thunberg, med. doct. prof. Reg. et Extraord. Academ. ... Flora Iaponica...
17. ツンベルク『ヨーロッパ、アフリカ、アジア紀行』スウェーデン語版 1788年
Resa uti Europa, Africa, Asia, förrättad åren 1770-1779.
18. ツンベルク『ヨーロッパ、アフリカ、アジア紀行』フランス語版 1788年
Voyages de C.P. Thunberg, au Japon, par le Cap de Bonne-Espérance, les îles de la Sonde, &c.

■ティチング (Titsingh, Isaac, 1744-1812)

アムステルダム生まれ。1779年に商館長として来日、3期にわたって通算3年8か月滞在中。1780年と1782年の2回、江戸参府をしている。彼がまとめた多くの原稿は、彼の没後、知人や友人の努力で出版され、ヨーロッパの人たちが江戸時代中期までの日本を知るうえで、貴重な資料になった。

19. ティチング『日本における婚礼と葬式』1822年
Cérémonies usitées au Japon, pour les mariages, les funérailles, et les principales fêtes de l'année.

20. ティチング『歴代将軍譜』 1820 年
Mémoires et anecdotes sur la dynastie régnante des Djogouns, souverains du Japon.
21. ティチング『日本風俗図誌』 英語版 1822 年
Illustrations of Japan.
22. ティチング『日本王代一覧』 1834 年
Nippon o dai itsi ran, ou, Annales des empereurs du Japon.

■シーボルト (Siebold, Philipp Franz von, 1796–1866)

1823 年に長崎へ派遣され、自然界から文化、社会、経済関連に至るまでおびただしい数の標本、見本、書籍、情報などを収集した。1830 年にオランダへ帰郷すると、持ち帰った多数の資料をもとに日本研究に専念した。1832 年から 20 年余をかけ、蝦夷地、琉球、朝鮮半島にも力を注いだ名著『NIPPON』を出版し、近代日本研究への道を切り開いた。シーボルトは一人の研究者として日本の総合的研究を行った最後の代表的ヨーロッパ人でもある。

23. シーボルト『日本』 図版より 「出島の図」
24. シーボルト『日本』 図版より 「おたきさん」
25. シーボルト『日本』 図版より 「富士の河口」
26. シーボルト『日本』 図版より 「永代橋と富士山」

27. シーボルト『日本』 テキスト編、図版編 1852 年
Nippon : Archiv zur Beschreibung von Japan und dessen neben- und Schutzländern, Jezo mit den südlichen Kurilen, Krafto, Koorai und den Liukiu-Inseln : nach japanischen und europäischen Schriften und eigen Beobachtungen. 2 vols.

■フィッセル、ブルトン

28. ブルトン『日本』 1818 年
Le Japon, ou, Mœurs, usages et costumes des habitans de cet empire.
ヨーロッパで出版された通俗的な小型本。カラー図版 54 点を含む。
29. フィッセル『日本風俗備考』 1833 年
Bijdrage tot de kennis van het japansche rijk.
フィッセルは 1820 年に来日、オランダ商館員として 9 年間勤務していた。

■ペリー来航

30. ホークス『日本遠征記』 1856 年
Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japan.
ペリー艦隊の公式報告書。以後、各国からの遠征隊や外交官などが続々と来日することになり、日本情報の伝達についても新たな時代を迎えることになる。

★貴重書の画像は、インターネットで閲覧することができます。(準備中のものあり)

[日文研貴重書データベース](#)

★参考文献

クレインス・フレデリック『17世紀のオランダ人の見た日本』 2010 年
白幡洋三郎『大名庭園』 1997 年